

「めざすぞ!! オリンピック」 ちびっ子スキー開校式



議長新年のあいさつ・夜間議会……………②

補正予算・報告事案等を審議……………③～④

請願・陳情・議員発議……………④～⑤

総務・経済委員会活動報告……………⑥

一般質問・村政を問う……………⑦～⑮

わたしのひとこと(新村 洋一さん・村越 雄太郎さん) ……………⑯

年頭のご挨拶

議会議長 宮澤 正 廣



新年明けましておめでと
うございます。

皆様方には、健康で希望
に満ちた初春を迎えられま
したことを心よりお慶び申
し上げます。

昨年中は、皆様のご支援
により福祉対策はもとより
地域の振興を始め、村政の
向上、充実に精励すること
ができましたことを心から
御礼申し上げます。

今日、国の内外ともに大
きな変革の時期に来ており
ますが、地方行政におきま
しても、地方分権型社会の
到来を受けまして、自己決
定、自己責任による自治体
運営が求められるなど、未

だかつて経験したことのない
新たな環境に日々直面
し、まさに行政の真価が問
われている時代といっても
過言ではありません。

我が村におきましても、
若年層の流出から少子高齢
化と過疎化が進み、村政の
発展を図る上で大きな課題
となっておりませんが、こ

れを打開するた
めには、地域住
民の若人とも
に、また、多く
の住民にも十分
魅力ある開発を
して活力溢れた
地域社会を実現
することが何よ
りも肝要である
と思います。

村の行政チェ
ックを担う議会
は、村の活性化
のために創意工



早急な観光再生が必要!!

夫を凝らすとともに、自覚
と誇りを持って住民のニー
ズを先取りし、先導的役割
を果たしてゆく心意気で村
政発展の期待に応えていく
ことを望み、相ともに心を
新たに「住み続けたい
村」「住んでみたい村」の
ために、皆様とともに邁進
して参りたいと思えます
で、多くの方のご支援、ご
協力を賜りますようお願い
申し上げます。

夜間議会 開催しました

傍聴者数

12月12日 20名

12月13日 21名

夜間議会

小谷村議会では、開かれた議会、村民に身近な議会をめざし、村民参加を推進する目的で、一昨年(2021年)の12月定例会で初の夜間議会を行いました。しかし、昨年の村議会議員選挙では、思いとは裏腹に、初の定数割れが生じてしまいました。こうした状況の背景には、小谷村が抱える人口減少、超高齢化という大きな課題が影響していることは言うまでもありません。若者が参加できる議会が目標であったはずの夜間議会であるが、議員のなり手不足を論じる前に、いかに若者が定着できる小谷村を作り上げるかを論じ、考え、方向性を見いだす必要があるのではないか。今後の小谷村議会の課題として、議会改革特別委員会の充実を図り、村民の皆様のご意見を伺いながら、さまざまな角度から小谷村議会としてのより良い方向を見だし、小谷村議会として取り組んで参りたいと考えています。

補正予算・報告事案等を審議

10月臨時会 村長提出議案

件名	内容	審議結果
工事変更請負契約締結の専決処分報告（山村地域資源高度活用促進施設 交流センター改修工事）	交流センター ちゃんめろ改修工事 17,377,200円増額 相手:金森建設(株)小谷営業所	承認 (全員賛成)
平成30年度 小谷村一般会計補正予算（第5号）	27億1,200万円追加 総額 84億3,700万円 (ふるさと応援寄付金の増額等)	可決 (全員賛成)

12月定例会 村長提出議案

件名	内容	審議結果
小谷村税条例の一部を改正する条例について	生産性向上特別措置法の成立に伴う条例改正	可決 (全員賛成)
小谷村移住おためし住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	施設の日中利用を認める等の改正	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村一般会計補正予算（第6号）	2億6,900万円追加 総額 87億600万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	130万円 追加 総額 3億6,860万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第2号）	100万円 追加 総額 1億140万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村簡易水道事業特別会計補正予算（第5号）	760万円 減額 総額 1億5,520万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）	180万円 減額 総額 1億50万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）	270万円 減額 総額 8,300万円	可決 (全員賛成)
北アルプス広域連合規約の変更について	大町病院併設施設（感染症病床）を市立大町総合病院に譲渡したことによる規約の変更	可決 (全員賛成)
村道路線の認定について	梅池スキー場南線2を、村道に認定する	可決 (全員賛成)
小谷村議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について	期末手当 0.05月 引き上げ	可決 (全員賛成)
小谷村特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例について	期末手当 0.05月 引き上げ	可決 (全員賛成)
小谷村一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	給料表の改正（400円～1,000円） 勤勉手当 0.05月 引き上げ 宿日直手当 4,200円 ⇒ 4,400円	可決 (全員賛成)

件名	内容	審議結果
平成30年度 小谷村一般会計補正予算（第7号）	300万円 追加 総額 87億900万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第3号）	歳出予算の組み替え 総額 1億140万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村簡易水道事業特別会計補正予算（第6号）	歳出予算の組み替え 総額 1億5,520万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）	歳出予算の組み替え 総額 1億50万円	可決 (全員賛成)
平成30年度 小谷村農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）	歳出予算の組み替え 総額 8,300万円	可決 (全員賛成)

請願・陳情

付託委員会	件名	提出者	審議結果
経済委員会	小谷村里見地区開発プロジェクト説明会開催の陳情書	里見自治会長 大池 拓磨	一部採択 (賛成多数)
経済委員会	村内事業再開発計画里見地区再開発に対する陳情書	鈴木 重孝 大室 実 太田 雅英 宮澤 祐一 神谷 稔 若林 正信 松本 寅雄 齊藤 和彦 石田 茂 宮澤 徳保	採択 (賛成多数)
総務委員会	「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を長野県知事に求める陳情書	小谷村公立学校教職員組合 執行委員長 丸山 貴久	採択 (全員賛成)
総務委員会	「後期高齢者の医療費窓口負担の見直し」にあたり原則1割負担の継続を求める意見書採択について	全日本年金者組合大北支部 支部長 井川 恵右 副支部長 松田 泰尚	趣旨採択 (賛成多数)
総務委員会	安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交替制労働の改善を求める陳情	長野県医療労働組合連合会 執行委員長 小林 吟子	採択 (全員賛成)
経済委員会	村内事業再開発計画里見地区再開発に対する陳情書	白馬乗鞍里見地区 活性化推進事業者連合会 鈴木 重孝 松本 寅雄 大室 実 宮澤 祐一 太田 雅英 神谷 稔 若林 正信 宮澤 徳保 宮澤 治男 宮澤 貴子 石田 茂 相澤 一義 鷲澤 汪 齊藤 和彦	採択 (賛成多数)

付託委員会	件名	提出者	審議結果
経済委員会	国土交通省告示第15号の履行に関する陳情書	一般社団法人長野県建築士事務所協会 会長 小河 節郎 大北支部 支部長 吉川 馨	採 択 (全員賛成)
経済委員会	最低制限価格の設定に関する陳情書	一般社団法人長野県建築士事務所協会 会長 小河 節郎 大北支部 支部長 吉川 馨	採 択 (全員賛成)
経済委員会	耐震診断・耐震改修に関する陳情書	一般社団法人長野県建築士事務所協会 会長 小河 節郎 大北支部 支部長 吉川 馨	採 択 (全員賛成)
【継続付託】 経済委員会	「里見地区古民家移築再開発事業」に関する陳情書	小谷村白馬乗鞍里見地区住民代表 里見自治会長 大池 拓磨 前里見自治会長 佐々木秀隆	不採 択 (賛成多数)

議員発議 ◇意見書は各関係機関に送付した

件名	審議結果
へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すことを求める意見書 都市部との格差が一層拡大している等のへき地における実情を踏まえ、文部科学省例の参酌基準及び近隣県との均衡を考慮し、へき地手当及びへき地手当に準じる手当の支給率を平成17年度以前の定率に戻すこと。	可 決 (全員賛成)
安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交替制労働の改善を求める意見書 1 医師・看護師・医療技術職・介護職などの夜勤交替制労働における労働環境を改善すること。 ① 1日8時間以内を基本に、労働時間の上限規制や勤務間インターバル確保、夜勤回数の制限など、労働環境改善のための規制を設けること。 ② 夜勤交替制労働者の労働時間を短縮すること。 ③ 介護施設などにおける1人夜勤を早期に解消すること。 2 医師・看護師・医療技術職・介護職を増員すること。 3 安定的な財源を確保した上で、安全・安心の医療・介護を実現すること。	可 決 (全員賛成)



深原おためし住宅 外観



内部

委員会活動報告

小谷村防災訓練

10月13日（小谷村）

集落要望ヒアリング

10月18・19日

姉妹都市白子町視察

10月22・23日



白子町板倉議員のガーベラハウス視察



素敵なガーベラがいっぱい！！

国会要望活動

11月12・13日（東京都）



新潟6区高鳥先生へ松糸道路の要望

長野県地方自治政策
課題研修会

11月16日（長野市）



共通課題を認識し村政に生かします



地元務台先生へしっかり小谷村の要望書を渡す

伊折トンネル現場視察

11月26日



入口



出口

小谷中学校台湾研修報告会

12月7日



しっかりまとめられた素晴らしい報告会でした

小谷郷土館かやぶき屋根
葺き替えお披露目

12月11日



いつまでも守りたい歴史と伝統

総務委員会

（*主だった活動）

白馬クロスロード感謝祭

10月5日（白馬村）

総務委員・小学校長・教頭・
園長・教育委員との懇談会

11月19日

経済委員会

ジビエ先進地視察

（参加議員 猪股・吉岡）



授業を聞きながら改めて初心にかえります



ジビエ

（委員長 吉澤 学）

村政を問う

30年 12月定例会一般質問

質問通告書 締切12月3日

一般質問は、定例議会において質問通告書を提出し、1時間の制限で執行機関に疑問点や所信を問います。CATVで公開されていますが、議会傍聴に来ませんか。会議場（定員30名）とモニター視聴室を設けています。今回は夜間として2日に分けて実施しました。

〈質問項目〉（順番は質問通告書提出順）

12日（水）午後6時～8時30分

- | | | |
|------------|-------------------------|---------|
| 1、吉澤 学 議員 | ① 観光再開発事業について | (8ページ) |
| | ② 燃料費の補助について | |
| 2、横澤かつ子 議員 | ① 平成31年度予算編成について | (9ページ) |
| | ② 里見地区再開発事業について | |
| 3、藤原 賢司 議員 | ① 平成31年度、当初予算案の編成方針について | (10ページ) |
| | ② 村長の公務について | |
| | ③ 現在の小谷村に必要なこと | |
| 4、吉岡 久人 議員 | ① 道路除雪体制について | (11ページ) |
| | ② 民生委員主導の屋根雪下ろし等について | |

13日（木）午後6時～8時15分

- | | | |
|------------|-------------------------|---------|
| 5、曾根原恵子 議員 | ① 村内事業再開発計画 村民への回答を早急に | (12ページ) |
| | ② 子育てしやすい村 支援の仕組み充実を | |
| 6、北村 利幸 議員 | ① 観光再開発事業について | (13ページ) |
| | ② ふるさと応援寄付金事業について | |
| 7、太田 武彦 議員 | ① ICTの活用について | (14ページ) |
| 8、猪股 充拡 議員 | ① 通年観光に向けての観光インフラ整備について | (15ページ) |
| | ② 村内道路の危険箇所について | |

【*一般質問のページは、質問議員が各自で作成をしています。】

「検討する」の回答はどうなったか？

【質問に「検討する」とした回答は、1年間検討後に村長より再回答されます。】

〈質 問〉

[29年 12月]

〈再 回 答〉

[30年 12月]

- 活性化施設「古美里」の施設全般の調査…… ◆ 10月まで実施。補修、改修、備品整備、管理体制等検討予定。
- クリーンコスモ姫川の処理方法変更は… ◆ 既存の下水道施設は慎重な対応必要で地元関係者と調整継続中。
- 有害鳥獣駆除部隊の料金アップは …… ◆ 今年度、一律ではなく、作業内容により増額改定をした。
- 公共事業の平準化の必要性 …………… ◆ 村有建築物の維持修繕で工事6件（600万円弱）を村内事業者が発注し実施。
- 54プロの取り組みは …………… ◆ 継続・持続的な支援にするため無償を有償での支え合いに発展するため検討継続中。
- 村の重要史料等の保管は …………… ◆ 今現在の緊急度は低いですが、今後、新設・既存施設利活用等調査研究予定。

観光再開発事業について



吉澤 学 議員

算として計上することになる。また、事業を中止する場合は、事業を清算し、定められた日数をもって社員を解雇した後、会社を清算する。

問 今後の計画方針は。

答 村長 10日月曜日、里見地区の皆さんと

観光再開発事業の意見交換を行った。16日(日)の夕方6時から2回目の村民向けの説明会を開催する。その結果を受けて、村長の立場で事業を進めるか、中止するかを表明することになる。事業を進める場合には来年4月まで再開発事業として必要な補助金を「おたりのアセット」として十分調整の上「補正予算」として議会上に上程する。また、来年度の予算として必要なものは継続事業となるので、3月議会定例会に平成31年度予

問 11月14日の説明会において、出席者から調査権を駆使して調べなければならぬ旨の意見が出たが、村長の考えは。

答 村長 議会に与えられた権限は、検査

権(地方自治法98条①)監査請求権(地方自治法98条②)、調査権(地方自治法100条)などがある。地方自治法に基づく調査であれば、特に意見を言うものではない。
【参考】
 会社や団体等に対して、議会の権限を使い調査することはできない。但し、地方公共団体が出資する会社に対しては、「出資金の行政

効果」を調査するために会社の承認済みの貸借対照表等の項目別内容明細等について、記録の提出を直接請求することができる。

燃料の補助について

問 長期予報によると今年には暖冬ということ

で、雪不足。また、灯油等の燃料高騰で観光事業に携わっている方々は大変かと思う。

一般家庭も燃料代の高騰で生活が逼迫している。このような時にふるさと応援寄付金を使わせていただき、営業の方には1リットル2円、一般家庭には1リットル3円程度の助成をしてはどうか。低所得者、70歳以上の高齢者、障害者、子育て世帯には、特に多くの助成を検討していただきたいと思う。そうすることで、小谷村にふるさと納税をしてくださった方の善意に込めることができ、村民の心も温まると思うが、村長の考えは。

答

村長 平成19年度に原油価格の急激な高騰を受けて、国の緊急生活

支援対策として高齢者世帯や子育て世帯に対し、灯油引換券(18リットル×6枚)を支給したことがあった。支給総額で、2,493千円、支給世帯数が243世帯で、大北管内の市町村で実施した。参考までに言うと、平成20年8月に1リットル137円(長野県の灯油価格統計)を記録している。

毎月村内ガソリンスタンドから燃料状況調べを提出していただいており、それを基に、7年前の平成23年から灯油代(家庭のホームタンク給油)を調べてみると、4月から翌年3月までの最低最高単価は

平成19年度 87円～112円

平成27年度 65円～94円

平成28年度 65円～83円

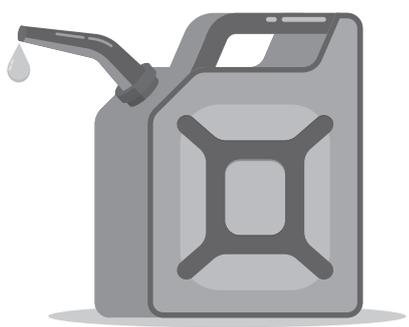
平成29年度 78円～93円

平成30年度 93円～105円

となつている。

今冬については、12月に入って原油価格の値下げにより、105円から100円まで少し下がってきているので、平成26年時の112円まで上昇しないと思われる。

議員からご提案をいただいたが、燃料費の補助については考えはない。



平成31年度予算編成について



横澤かつ子 議員

さらに新規の要望、事業要請等も考えている。

里見地区再開発事業について

問 役場庁内にある観光振興課、および小谷観光連盟とのそれぞれの連携について現時点での村民説明会に一切出席していない村民（観光事業者）は不審に思っている。

答 村長 開発事業については会社（アセット）で行うということは今でも変わっていない。ただし、細かい話の中ではさまざまな調整が当然観光振興課にもある。それぞれの部署において、話し合いをし

ていく。

問 地域づくり、村づくりとは庁内一丸（役場職員）となつての地域づくりだが、村長のこの手法について村民は不安感・不信を抱いている。村長の考えは。

答 村長 私は正しいと思っている。

問 全体説明会の質問に対してアセットおよび村長の答弁がちぐはぐな答弁と観光事業者は首をかしげる。あやふやな答弁をしている。

答 村長 私は正しいと思っている。まだ事業がわからない人が大勢いるかと思う。わからないことがあればぜひ聞いてほしい。

問 村民の大切な税金をある再開発事業の経営計画書を提示すべきであることは村長の責務と思うが。

答 村長 計画はない。

問 第5次総合計画（後期）との連携は。

答 村長 地方創生に特化した人口減少問題の速効性の高いものを選定していく。

問 予算の基本方針は。

答 村長 財政の健全化を推進しながら全国から寄せられる【ふるさと応援寄付金】及び【過疎対策事業債】を活用していく。事業計画と主要施策は。

答 村長 全ての担当課室を合わせ、41件29億7,200万円の来年度の主要な計画であるが、あくまでも概算数値。今後

	予定される主な事業計画	概算数値
庶務係	庁舎の多目的ホール改修 会議室エアコン 消防小型ポンプ搭載車など7件	2億円
企画財政係	ケーブルテレビ機器更新4K化 沓掛シェアオフィスの2件	3億4,000万円
建設係	鐘の鳴る丘住宅整備 村道千国若栗線改良工事 平倉トンネル補修工事、生活関連緊急対策 道路補修工事など14件	5億8,800万円
水道係	公営企業会計移行事務支援業務委託1件	1,500万円
観光商工係	雨飾山登山道整備 携帯トイレブース整備 塩水公衆トイレ改修など6件	3,400万円
農林係	営農倉庫建築 道の駅改修など3件	1億5,100万円
教育委員会	小谷中学校プール跡地利用 塩の道公園の遊具増設など4件	6,400万円
特産推進室	加工貯蔵施設 安心居住施設など4件	15億8,000万円

予算編成方針を問う



藤原 賢司 議員

問 小谷村観光事業再開
発計画に対して次年
度予算の編成方針は。

答 村長 計画中止の場
合には予算は不要と
なり、計画を実行する場
合は、(株)おたりアセツトの
計画に沿って積算したもの
を十分に協議した後に査定
して計上する。

問 小谷村観光事業再開
発計画に対して次年
度予算の編成方針は。

答 村長 計画中止の場
合には予算は不要と
なり、計画を実行する場
合は、(株)おたりアセツトの
計画に沿って積算したもの
を十分に協議した後に査定
して計上する。

問 小谷村観光事業再開
発計画の未来を見据
えた投資対効果は。

答 村長 廃屋の取壊し
による環境改善や、
再開発事業による建築業界
等に与える効果の他、土地
建物の固定資産税、住民税
などの税収効果、また、会
社に利益が生ずれば、小谷

村への配当金、広域観光の
中での観光ポイント、悪天
候の時の観光者利用や、こ
の地域への誘客・集客効果、
住民の働き場所としてもそ
の効果を期待している。

問 土木・建築に関わる
次年度予算案の編成
方針、公共事業に対する考
えは。

答 村長 今年度並みの
予算を確保し、緊急
度・優先度を検討し、年度
当初より事業を進め、生活
関連緊急整備事業の「建築
事業関連」も必要な補修予
算を確保し対応したい。

問 公共事業は、村民の暮ら
しを支えるために必要であ
り、財政状況に配慮し、今
後も計画的に必要な投資を
行っていくべきだ。

答 小谷村第5次総合
計画後期計画の目標
達成の為に予算案の編成方
針、後継者に託すものは。

問 小谷村第5次総合
計画後期計画の目標
達成の為に予算案の編成方
針、後継者に託すものは。

答 小谷村第5次総合
計画後期計画の目標
達成の為に予算案の編成方
針、後継者に託すものは。

問 小谷村第5次総合
計画後期計画の目標
達成の為に予算案の編成方
針、後継者に託すものは。

答 小谷村第5次総合
計画後期計画の目標
達成の為に予算案の編成方
針、後継者に託すものは。

問 小谷村第5次総合
計画後期計画の目標
達成の為に予算案の編成方
針、後継者に託すものは。

答 小谷村第5次総合
計画後期計画の目標
達成の為に予算案の編成方
針、後継者に託すものは。

答 村長 継続事業の早
期完成・完了を第一
に予算編成を行い、新規事
業は早急に対応が必要なも
のを除き新首長に事業着手
の判断を任せたい。

問 後継者には人口減少の抑
止策を期待したい。

答 現時点での予算編成
状況は。

問 現状では人口減少の抑
止策を期待したい。

答 村長 年明け要求書
が出され、1月31日
までに査定を実施し、予算
規模を決定したい。

問 村長の公務について

答 村長の本年4月から
12月3日迄の公務状
況を教えてください。

問 村長の本年4月から
12月3日迄の公務状
況を教えてください。

答 村長 ①定例議会、
担当者との調整、会
議等の出席回数30回。
②各種の審議会、委員会へ
の出席回数52回。
③全村、地域のイベント、
学校行事など41回。
④村内外等からの訪問者へ
の対応46回。
⑤地域住民、団体との会合、

問 懇親会等への出席22回。
⑥国、県への陳情、また全
国市町村会等への公務出
張、広域・白馬山麓など近
隣自治体との会合124回。
⑦自宅での仕事は一切ない
が、土日の休日等に村長室
で仕事をしたのは24回。ま
た、その他に台湾、ニュー
ジーランドのマルボロ、
イギリスのオタリーセント
メリーに各1回で計16日間
出張している。

問 公務と政務の判断基
準、また、公務の優
先順位に対する考えは。

答 村長 グレーの部分
はあるが、小谷村の
看板を背負った要望やイベ
ントなどは公務。公務に必
要な団体、政治家等との交
流は政務と考え、それ以外
の個人的な交流・親睦は私
用と考えている。

問 4月から約170日
間の間に約355回
の公務は大変だ。広域連合
議会など村長が抱える役職
の中で、副村長や他の職員

答 村長 代理が可能な
会議等は代理出席を
お願いし、組織の理事等の
役職は、松本久志個人名の
ため、代理は利かない。
改善すべき点は村長が代
表する組織への補助金交付
は疑問。観光連盟や社会福
祉協議会等の代表者を変更
することを検討すべき。

問 小谷村に必要なものは

答 だれもが住みたくな
る元気な村を目指す
ために必要なこと、残任4
カ月で成し遂げたいことは。

道路除雪体制について



吉岡 久人 議員

問 当村の現状、オペレーター（運転手）へのインフルエンザ予防接種補助、体調悪化による体制集落配備の小型除雪機の現状は。

答 村長 国・県道（4路線・総距離41.7km）は大町建設事務所管轄。村管轄の村道は直営（39.4km）を30〜50代の11名（平均49.3歳）で実施。車両貸付（26.1km）は村内建設業者7社、委託（46.6km）は11社に、また、凍結防止剤散布（54.1km）は4社に車両貸付で実施している。予備車を含む村有車両はドーザー車26台、ロータリー車5台、散布車5台。

い、他の路線担当が応援に行くなど連携した協力体制で対応している。

車両更新は43雪寒路線で使用する車両購入に社会資本整備総合交付金（交付率2/3）により、補助残に過疎対策事業債を充当。新車両は国土交通省所管補助金等交付規則及び県の例により、雪寒路線での使用が12年経過後、他の路線で使用し、概ね20年経過し老朽化等で支障がある車両から更新。

直営の運転手にはシーズン当初打合せ会議時、「安全第一とし、運転手は日頃から体調など自己管理をする中で出勤に備える」「作業中に疲労が著しい場合は、無理をせずに作業を中断し休養をとる」など健康に留意させ、「インフルエンザは事前に予防接種を受けることが望ましい」と話し、今後自己管理の中での対応とする。また、除雪作業に支障ある場合は、運転手と村担当職員が連絡・調整を行

料は地区負担でお願いしている。

民生委員主導の屋根雪下ろし等について

問 制度の概要・現状、平屋や萱を覆うトタン吹きの下にも適用か。飯山市の「高齢者等玄関先除雪支援事業」が新聞に掲載され、市の担当者に情報収集したが、小谷村独自の補助体制はできないか。

答 村長 昭和52年から県の「特別豪雪地帯住宅除雪支援事業」で、独り暮らし高齢者宅等への雪害救助員（現在は支援員）を派遣してきた。平成23年に「小谷村住宅除雪支援事業実施要綱」を制定し、県の「同事業実施要領」に基づいて住民福祉課が担当し民生委員を通して実施。対象者の変遷は平成20年50世帯、25年39世帯、26年37世帯、27年29世帯、28年28世帯、29年25世帯、30年27世帯と推移し、向こう10年の予想はほ

ぼ横ばいで推移すると見込むが、支援員も高齢化し確保が難しくなると思う。

条件は自己の資力・労力で除雪できず①65歳以上の世帯。②母子・寡婦福祉法の規定に基づく母子世帯。③生計の中心者が疾病・心身障がい者の世帯。④村長が特に必要と認める世帯。その内、村民税所得割非課税世帯に限る。近隣市町村に子どもがいる場合（松本市・長野市・糸魚川市まで）は対象外。白馬村は長野県内とのこと。また、半年以上留守の世帯も対象外。平屋も適用で庇も状況に応じて判断される。地上に下した雪は必要最小限の範囲認められるので玄関先までは必要と認識。社会福祉協議会の「除雪有償ボランティア制度」もあり、今後検討していきたい。

答 住民福祉課長 県も来年度からこの制度の見直しをしたとの情報を得ている。



次に集落配備の小型除雪機は昭和61年から現在113台が稼働中。一番多く配備した年度は平成7年の25台。8年の10台、4年の9台の順。本年は3台導入して、新規で月岡地区と更新で奉納・大網地区に配備した。地区からは1台当たり事業費の1割を寄付金として負担してもらう。更新は、稼働1,000時間を目安に地区の要望を聞きながら実施。小型除雪機は村の所有で共同使用の機械配備なので厳密な管理を行い、維持管理費の修理、燃

里見地区開発

村民への回答を



曾根原恵子 議員

住民が主人公の観光開発を

問 陳情書など、回答が遅い。速やかに誠意を持って応えてほしい。

答 村長 回答が遅れ、里見自治会のみならずには申し訳なかった。12月10日の意見交換会で回答した。

問 計画が破綻した場合、村が土地を買い取る意向を示したが、間違いないか。

答 村長 小谷アセットが所有している土地は村が買い取らざるを得ない。村が株主なので自動的

に資産を受けることになる場合もある。成功の確信はあるが、万が一の時は買い取る。その気持ちを持って事業にあたる。

問 融資を受けられなかった場合は事業を中止するのか。

答 村長 中止する。

問 今後も村づくりで村と村民の間に意見相違があった場合、裁判に訴えるという手法を許すのか。

答 村長 今回、野崎社長が民事訴訟を起したの、個人への中傷であり、アセットの社長として訴訟をしていない。個人の民事訴訟に対して行政が見解を述べることはできない。社長には事業に対して反対意見にも真摯に話し合いを行い、お互いに

納得いく努力をするよう株主として伝えてある。社長も事業に対しての意見なら、賛成、反対に関わらずありがたくいただくということだ。

問 説明不足と手順の間違いを認めるなら「ありき」の進め方を改め若者の意見を取り入れる仕組みを工夫したらどうか。事業推進協議会・ワークシヨップは考えないのか。

答 村長 考えていない。

問 多額の財政支出がある事業だ。だれが審査・監査をするのか。

答 副村長 議会にチェック機能がある。一年ごとの事業報告が求められている。第3者による審査監査委員会をつくることは考えていない。

子育てしやすい村 支援充実を

問 保健師・保育士・学校が連携して進めて



いる仕組みを統一し「支援拠点」一本化がいわれている。妊娠から子育て、女性の健康・働き方まで、包括的に支援する仕組みに。

答 教育長 各部署の連携という視点では、子育て支援センター職員・主任保育士・保健師が協力してフォローアップ・セカンド教室を実施している。最近では「子育て包括支援センター」を開設する動きがある。

問 利用者側からすると窓口の一貫性が望ましい。

答 教育長 母子保健法の改正に伴い、市町村の設置が努力義務とされた。村では出生数が20人程度で把握しやすいため、現在は顔の見える関係で円滑に行われている。皆さんが不都合と感じていたり、窓口一本化の希望があれば検討する。32年度は計画策定するので調査しアンケートを実施する。

問 「産後うつ」の対応など課題がある。専門分野・責任が持てる待遇での人的配備が必要だ。

答 教育長 検討する。



観光再開発事業について



北村 利幸 議員

問 村民への説明会を開催したが、村民の意見をどのように受け止めたか。

答 村民への説明会を開催したが、村民の意見をどのように受け止めたか。

答 事業を行わないほうが良い、事業自体を村が作った会社が行うべきでないといった、完全に否定する意見が少なかったことに安堵している。

また、説明の中で、株式会社と村という自治体の違いを理解していただくこと、のむずかしさ、金融機関の融資に係る考えに違いがあることを実感した。

問 村民への説明会を今後、開催する考えはあるか。

答 村長 12月10日に里見地区の関係する皆さんに集まっていたいただき、率直に考えを述べて意見交換をした。

観光の再開発に前向きな発言や、反対ではなく話し合いを望むとの声が多く聞かれたので、そのことも含め12月16日の夕方6時から説明会を開催する。

問 事業にはスピード感が重要である。また、地元索道業者の協力が欠かせない。

早急に対応することが必要ではないか。

答 村長 私もそのように考えているが、今議会の議員の皆様、事業に対する一般質問の内容や考え、村民説明会も踏まえ、十二分に思案して、白馬乗鞍里見地区での事業の開始もしくは中止の判断をしたと思う。

事業を始めるにしても中止するにしてもその方針を里見地区の皆さんに報告し、予算の変更が伴うので、年明けの早い時期に臨時議会を招集させていただくことを考えており、その席で結論を表明する。

問 再開発を希望する地区から先に事業を進めるべきではないか。

答 村長 他の地区からさまざまな期待や希望が寄せられているのは事実だが、その内容を検討し可能性を判断するにはやはり相当の時間がかかる見込みであり、白馬乗鞍里見地区で事業を行うことを話し合い、その判断を保留している現在、他の地区のことは検討していない。

ふるさと応援寄付金事業について

問 総務省の強い指摘により返礼品は地元産品に限定された。当村の返礼品の95%以上該当し、今

後の寄付金は大きく減少する。来年度以降の寄付金の予想金額と事業への影響はどうか。

答 村長 平成28年度約27億円、平成29年度約24億円と多くの寄付金をいただいた。

今年度は、地場産品以外の商品を取りやめる方針としたこともあるが、駆け込み需要があり12月末までに30億近くの寄付があると見込まれる。もともとポイントバウチャーが返礼品ではない頃は、1億円に満たない寄付金事業なので、来年度以降、2億円程度と見込んでいる。

事業への影響については、一旦基金に積み立てたものを各種事業に充てていく予定。

今年度までの寄付金を使用することに、より実施可能であり、現在計画している事

業には直接的な影響は少ないと考えるが、貴重な財源として大切に活用させていただきたいと考えている。

問 返礼品を検討する組織体制は。

答 村長 現在、チームラボセールズに協力してもらいながら、庁内若手職員を中心として係を横断的に跨いだ組織を編成している。若い世代を中心に、担当課とこの組織が連携して返礼品の検討などを考えている。



年末年始休みなく！ふるさと納税事務作業

ICTの活用について



太田 武彦 議員

⑤ 4K・8K対応はどうか。

答

村長 ①、⑤について、小谷CATVは

問 ①インターネットの通信速度が遅いが村はどのような対策を行っているか。

②テレワークについて、その資質研修、仕事幹旋施策を行ったが、その効果はどうか。今後もっと力を入れて行くべきと考えるが、どう取り組むか。
③現在シェアオフィスを計画、施策中であるが、その進捗状況は。このオフィスは、サテライトオフィスに進化して行くものか。また、テレワークも含め村内雇用創出に繋がるものか。
④観光情報の発信へ、ICT活用の現状と、今後の取り組みについて。

十年以上たち村内光ファイバー網は問題なく使用できておりますが、村のセンター室に集められた情報を束ねて、外向けのインターネット回線に送出しており、その回線はインフォブレイが管理している。近年スマートフォンの普及・ワイファイの設置等で当初の十倍以上のデータ量になっており、インフォブレイが設置した外向けの帯域では賄えきれなくなつたため、昨年頃から帯域を広げるようにお願いしてきた。NTT工事の関係もあり漸く12月から、インターネット速度が速くなっている。ICT技術の活用観点から今後もインフラ整備を継続し、快適な通信環境を整備し続ける

ことが重要だ。小谷CATVも、4K対応を含め来年度センター機器の更新を考えている。しかし8K対応となると、光ケーブル網の分岐機器まで変えなければならず、現在検討している。
②、③シェアオフィスは現在詳細設計を行つており、改修工事は来年度着手予定だ。完成後は村民の方にも活用していただきたいと思う。現在、メディア関係の協会と連携し、企業や、フリーランスの方に契約をしていただけるよう活動しており、企業のサテライトオフィスとしての活用を模索している。テレワークについては、「小谷村女性再活躍総合支援事業」として、平成29年8月から平成30年2月まで就業のための養成講座と、テレワークの実証を行った。結果は、4名の方が講習を完了し、テレワークを実証したが結果は、テレワークを継続されている方は0である。要

因は、受講実証された方々から、「仕事を始める時点で、その仕事をできるかどうかの不安」等の意見をいただき、テレワークを希望される方同士の情報交換やアドバイスを受けられる環境が必要ということがわかった。時間に制限されない働き方の一つとして、テレワークは有効な手段であると考えますが、実践者が少ない小谷村では意見交換やアドバイスをいただく環境もないことから、なかなかテレワークは広まらない。しかしながら、整備中のシェアオフィスを活用することで環境面での課題の解決につながるかと期待している。
④観光情報の発信は、パンフレットとホームページが主となるが、梅池自然園、温泉、山岳、塩の道、体験ツアー、宿泊情報等観光資源を紹介している。

イスブック、ツイッター、インスタグラムといったSNSを使った情報発信に力を入れている。また、YouTubeによる梅池自然園の動画の発信や、村内に設置したライブカメラの映像も見る事ができる。近年は、SNSを観光情報の収集源とする動きが強まっている。SNSの代表的なフェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ラインなど情報収集源として使用頻度が高く有効と考えられる発信方法について更に強化していく。SNSの良いところは、金をかけなくても、村に訪れた観光客自身SNSを使い情報を拡散していただけることだ。そのためには、インスタ映えするような印象に残る観光地のスポットを整備していきたいと思う。



通年観光に向けての観光インフラについて



猪股 充拡 議員

問

通年観光の目玉として、梅池にも初めて観光用アクティビティ「SUGAIKE WOW!」を建設し8月より営業を開始し10月31日までで約9,000人の集客をし、お隣白馬岩岳でも北アルプスを一望できる山頂テラス・ハクバ・ハーバーをオープンし、わずか1ヶ月で30,000人余りの集客があり、ある程度投資し施設整備をすればまだまだ観光地として勝負できる結果だと思おう。

主要産業が観光業で通年観光・国際的山岳観光を目指す小谷村としましても観

答

光地の施設整備・滞在型観光のできる施設の構築が必要と考えるし、今後もさまざまな分野で村からの支援が必要だと思う。10年後20年後を見据えた観光地小谷村の展望・将来像を伺う。

村長

通年観光・国際的山岳観光を目指すならば必要だと考えることを3点述べる。

1 点目は交通問題だ。高速道ICからも新幹線からも1時間以内に安全に村内観光目的地にアクセスできる道路または鉄道があること。鉄道在来線の高速化は図れないので、松本糸魚川連絡道路の早期建設と、国道148号線の現道利用区間の部分的改良にかかっている。

2 点目は広域連携、季節・天候に関わらず複数日の滞在型観光が可能とする

こと。近隣観光地を結ぶ2次交通の整備や地域内で悪天候でも観光できる施設や観光対象が必要となる。これから制定に向けて動き出す景観条例や景観計画、里見地区での観光再生や梅池での複合施設構想に期待するとともに、海外への観光誘客や2次交通の整備は大町・白馬・小谷の3市村と観光組織や策動組織で設立を予定する観光DMOに大きな期待をかけている。

3 点目は、「日本は安全だから安心」という声を海外のみなさんからよく聞く。これからは建物の耐震化や耐用年数迎える策動施設の更新など、観光する皆さん

が安心して利用できる環境を整えないと国内はもちろん国際的な観光地の競争に勝てないと思う。

2022年度中には北陸新幹線の金沢―敦賀間の開業を行うことにより関西方面の観光集客が増える可能性はある。

地球温暖化の影響か、この8年間に今年も入れて年末の雪不足に苦しんだ年が3年あり、冬季観光はこの地域の目玉だが、通年観光を目指す必要がある。海外に対する発信力を強化し海外観光地と競り合うことにより生き残る手立てが必要と考える。

村内道路の危険箇所について

問

11月初旬、中谷から国道に入る交差点でバスとトラックとの衝突事故があった。以前より事故が多発し危険箇所と言われている場所だ。村としても国・県・警察等報告し改善を求めているとは思いますが、村独自の交通

ハザードマップ的なものを作成し村民全体に周知したらどうか。対応を伺う。

答

村長 議員から提案いただいた「交通ハザードマップ」の作成だが、保育園保護者・小学校PTAから毎年通学路の危険箇所の点検結果をもとに陳情いただいている。

他の都道府県の様子を調べると県単位で各市町村ごとに「交通事故発生マップ」や「交通安全ヒヤリ・ハット・マップ」などを作成し広域的に事故防止に努めているケースが多々あり、県単位で作成することにより、効果が出ると思われるので、関係機関に働きかけをしたいと思う。



進化しつづける観光地



村民のみなさん注意して!!

わたしのひまわり

繋がりを大切に。

池の田キャンプ場

2年目を終えて思うこと。

地域おこし協力隊 新村 洋一

池の田キャンプ場の運営が無事2シーズン目を終えました。

キャンプ場の目玉でもある食事は昨年同様、土倉地区の皆さんにご協力いただきケータリングで提供し、美味しいと評判でした。また、別の地区の方からは廃材をいただき、はさがけをキャンプ場のゲートに、古材でキッチンや流しも作り、好評でした。雨対策の集水パイプを埋設するのも小谷の方にご協力いただいたおかげで水たまりを気にせず営業することができました。小谷の方の優しい気持ちと繋がりで「メイドイン小谷」のキャンプ場が運

営でき、お客様にご満足いただけました。

私は諏訪市の諏訪大社上社地区で生まれ育ったため、小谷で生活するにあたり、諏訪大社の権禰宜から小谷村と諏訪大社の「繋がりをしっかりと勉強し、意識して生活することをアドバイスしていただきました。

いろいろなお縁で繋がる小谷村。これからも小谷の人や歴史、文化など、繋がりを大切にして価値の再生事業に励んでいきたいと思っています。



わたしのひまわり

中谷東 村越 雄太郎

調べてみると、小谷村の現在の人口が約2,900人。少し前には将来的に消滅する可能性がある市町村で見事ランキングされてきたようにも記憶しています。小谷の魅力は何か？特産品は？誇れる風景は？僕は小谷が好きで、その魅力を感じてここで生きています。

ですが、普段当たり前すぎたり気付けないうちに、実は知らなかつたこと、まだまだたくさんあります。僕も参加する OTARI-ink は小谷好きな人の集まりで、さまざまな活動を通して小谷の魅力の再発見、仲

間達との縁を広げています。

「いったい何の活動をしているの？」「小谷村を消滅から救う活動です！」は大袈裟ですが、故郷を好きになる手助けが出来ればいいなと思っています。Tシャツを着ている人を見かけたら、お気軽にお声掛けください。

小谷の年寄りには元気ですが、若者にも活きのいいのがありますよ！応援よろしくお願いします。



編集後記

平成最後の新春を決意新たに迎えました。

今年はずばらしい年となるよう頑張りました。

今冬季シーズンは雪不足で始まりましたが、年間をとおして大勢のお客様でにぎわうことを願っております。

昨年は観光再生事業について村民説明会が開催され、議会でも多くの議論が交わされました。

厳しい経済状況のなかで小谷村の基幹産業である観光事業が将来にわたって発展するよう、村民が希望を保持する積極的な議論が行われることを期待しております。

議会広報編集委員会

委員長

副委員長

委員

猪股 充拓

太田 武彦

北村 利幸

藤原 賢司

吉岡 久人